

第1回 鯖江市上下水道料金等改定検討委員会

日 時	令和8年5月25日(月) 14:00~16:30	
場 所	鯖江市役所	
議 題	(1) 諮問書の確認 (2) 水道事業及び下水道事業の概要・経営状況について (3) 今後の課題等について	
資 料	・第1回 鯖江市上下水道料金等改定検討委員会 次第 ・諮問書の写し ・鯖江市上下水道料金等改定検討委員会 委員名簿 ・鯖江市上下水道料金等改定検討委員会設置要項 ・資料1 水道、下水道の概要、経営状況及び今後の課題等について ・参考 鯖江市水道事業経営戦略、鯖江市下水道事業経営戦略	
出席者	委員	杉山友城氏、奥村充司氏、田村英史氏、小澤邦嗣氏、姫野貴子氏、山本雅之氏、笹本友洋氏、水野豊美子氏、齋藤留美氏、小谷敬子氏
	事務局	
議事録		
1. 開会	(事務局より委員長に福井県立大学地域政策学部地域イノベーション学科 杉山友城氏、副委員長に福井工業高等専門学校環境都市工学科 奥村充司氏を推薦する案を提示し、委員より承認。) (市長より杉山委員長へ諮問)	
2. 委嘱状交付		
3. 委員長及び副委員長の選出		
4. 委員長挨拶		
5. 諮問		
6. 議事		
7. その他		
8. 閉会		
(1) 諮問書の確認	事務局	事務局より諮問内容について説明
(2) 水道事業及び下水道事業の概要・経営状況について	事務局	事務局より水道事業及び下水道事業の概要について説明
	委員長	ただいまの説明内容について、ご質問等がございますか。

委員 私は一般会計繰入金、つまり税収が一番気になりました。埼玉県の道路陥没事故の件があり、今まであまり関心のない人も、ランニングコスト、老朽化への対応などが、今後どうなっていくのだろうという不安要素を感じております。そのランニングコストを賄っていく中で、一般会計の税収の繰入れは、これまで以上に避けて通れないのかなと考えております。鯖江は人口減少という意味では、他の自治体ほど減ってはないというイメージがあるのですが、人口が減ってないのに税収が下がっているというイメージがあります。様々な要素はあると思いますが、鯖江は福井に隣接しておりますので、一部はベッドタウン化しているのかなと考えています。税収の一番大きな要素である法人税、法人市民税は、非常に額的に大きく出ていますが、一般の若いサラリーマンが住んでいて福井に働きに行っているだけだと、税収はあんまり上がりません。冒頭の市長のお話にもありましたように、老朽化や人口減少が大きなキーワードですが、今後の税収の推移というところも、大きなキーワードになってくるのかなと思います。

事務局 越前市や福井市のような大きな企業というのが鯖江市にはなく、中小零細企業中心となっております。社長は日本一多いというところもありますが、税収が上がるような動きというのはなかなかございません。鯖江市の中小企業に対しても様々な施策を組み入れながら、税収を上げるような取組を行っていますが、なかなか難しいのが現状でございます。

人口減少につきましては、令和 2 年頃まで他の自治体で人口が減っていても鯖江市は維持していたのですが、現在は人口減少に転じております。そのため、税収が増えるような取り組みは考えていかなければならないと考えておりますが、なかなか難しいのが現状です。人口減少で料金収入が減るところが一番大きいので、今後また色々なことを検討していただきたいと考えております。

事務局 一般会計からの繰入れについてですが、基本的には料金収入で賄えるものは賄っていかねばなりません。それ以外、公共下水道で言いますと、雨水処理などもやっていますので、そこは基準内で一般会計からいただける項目もありますので、それに関してはしっかりいただきたいと思っています。

赤字の補てんでいただいている基準外の繰入金については、現状いただかないと経営が成り立たない状況ですので、市の財政部門と話し合いながら、いただけるものはしっかりいただいて経営していきたいと思っております。

委員長 税収の増減はかなり気になる場所ですので、次回までに、市の税収がどのような動きをしているのか、今後の予測というものも共有いただけるとありがたいと思います。

委員 家計を預かっている者としては、今のこの物価高の状況の中で値上げは今行うべきで

はない、という思いであります。しかし、私なりに、経営の状況を理解しようと、越前市さんや福井市さんなどの料金を、ホームページで調べさせていただきました。そうすると、加入金など、様々な部分で鯖江市の料金は低かったため、使用している分については、払わなければならないという風に感じました。本当は今じゃないでしょうという意見を言わせていただこうと思ったのですが、まずは、他の市の料金や加入金などを比較した資料を提示していただきたいと思っております。

委員長 料金に関しては、県内の市からそれぞれ出していただいておりますが、今後議論していく上では、もう少し深掘ったところでの比較というものを見ながら進めていくべきだというお話をいただいたと思います。今すぐは無理かと思っておりますので、ぜひ次回までにご準備いただければと思います。

委員 上下水道の運営費用の中に、給水ステーションや給水車などの災害時の対策費用なども含まれているのでしょうか。それとも家庭用や企業用、農地用などの運営費用のみで資料を提示いただいたのでしょうか。災害時の対策も含めての上下水道という意味合いなのか、それとも本当に純粹に家庭・企業・農業用水としての上下水道という意味合いなのか、お聞きしたいです。

事務局 災害対策として、水道管や施設を耐震補強する費用、耐震管路への変更費用は含まれております。災害があったときに備えて準備はしているところでございますが、貯めた水を何かに使うという費用は含まれておりません。農業用水もこちらの管轄ではないので、本当に水道水と、それを処理するための汚水処理を行うための費用が、今報告させていただいた数字になっております。

委員長 そうすると、今のところは民生の部分と企業の事業面のところがメインだということですね。ちなみに給水車の有無、その維持管理費用の有無について教えていただけますか。

事務局 給水車は水道の給水車を 1 台保有しております、1.6 トン級でございます。維持管理費用も含まれております。他市で災害があったときに、給水派遣の要請があった場合に派遣して、現地で給水活動を行っております。

委員長 防災に関する費用も含まれているという認識でよろしいでしょうか。

事務局 その認識で合っております。

委員 水道事業の資料 7 ページに原水及び浄水費の約 9 割を県水受水費が占めていると

	<p>記載がありますが、日野川用水供給事業において、県水を9割買われているという認識でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、その認識で合っております。1日あたり2万トンで、責任受水という形で県より買っております。1日の使用量の平均が約2万3千トンですので、約9割が県水ということになります。</p>
委員	<p>2万トンは契約で買っているということですね。例えば4ページに水源13箇所とありますけれども、足りない分はこういったものをうまく使いながら、その分を上乗せして供給しているという認識でよろしいですか。</p>
事務局	<p>その通りです。県水で賅えない部分を自家水源で賅っております。先ほどありましたポンプ場の数をいくつか持っておりまして、それを順番に使いながら供給している状況になっております。</p>
委員	<p>簡易水道事業はもうこちらにはないということよろしいですか。 水源の井戸は地下水か何かを汲み上げて塩素消毒しているという形よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>簡易水道は鯖江市にはございません。 浄水は塩素消毒して、実際は県で買っている水とブレンドして配水しているような状況でございます。</p>
委員	<p>例えば南越前町さんや越前町さんは、場所的に中心から外れた海沿いなどでは簡易水道で、いろんな方法で浄水して供給されているのもものすごく経費的にはかかると思うのですが、鯖江市の場合はそういったものに比べると割と安く済むという考え方でよろしいですか。</p>
事務局	<p>簡易水道は、以前はありましたが、今はなくなりましたので、そういう点では効率化されているのかなと思っております。</p>
委員	<p>県水がほとんどの割合を占めているので、料金を安くしてもらおうとか、そういったことはできないのでしょうか。県水がこれから値上がりするようになれば、やむを得ず市民が負担する形になるのかなと考えております。そのあたりは県とはどういう協議をされているのでしょうか。</p>

事務局	<p>県水につきましては、当初に買った時の値段が 1 立方メートル当たり 113 円からスタートしておりまして、その後 2 回値下げしていただいて、現在は 1 立方メートル当たり 90 円で購入していただいております。また、今後も値下げをお願いしたいということで、重要要望事項のような形で県の方に要望させていただき、協議の場を持って、できるだけ下げさせていただきたいということはお伝えしております。また県から水をいただいている自治体が 5 市町ありますので、毎年、全体として値下げの要望活動を行っているところでございます。</p>
委員長	<p>県から買っているということは、お金が市外に出ていっているということで、ここをどう絞っていくかという話も出てくるかなと思いますが、県とは値引き交渉をしていただいて、努力していただいているということが共有できたかと思えます。</p>
委員	<p>資料 14 ページの整備状況についてですが、私の住んでいるところは日野川の西部地区で、農業集落排水事業で 6 か所ぐらいの処理場を通して処理しているところですが、確か加入した当時、将来的にはゆくゆく公共下水と一緒に処理をするようになっておりました。今は 6 か所で、それぞれ各 2、3 集落を 1 か所で処理していますけれども、6 か所も分かれて処理していると費用的にも相当かかるのではないかなと思います。もし将来的に農業集落排水が公共下水道と一括して 1 か所で処理するような計画があるのでしたら、お知らせいただけますか。</p>
事務局	<p>将来的にはそういった効率化というの、国の中では進めていく方針ではあります。しかし現状としては、6 つの処理場をつなげるためには、初期投資も必要になりますし、あまり費用対効果が出ないというのが回答になります。将来的には人口減少も進んでいく中で、そういったことも考えていかなければと思っておりますけれども、今のところは具体的な計画はないところでございます。</p>
委員長	<p>現状として、統合するとランニングコストなどいろいろあるかもしれませんが、費用対効果から考えると、統合するための初期投資の部分にお金を使うということはどうなのかという判断をされているということでよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい、お見込みのとおりです。</p>
委員	<p>今までの説明で、老朽化施設の更新、人口減で収入が減っていく、物価が上がっていくという中で、収支が苦しい状況になっているということは把握させていただきました。資料 9 ページと 19 ページで、それぞれ水道事業と下水道事業の経営指標を示していただいておりますが、同ページ内の類似団体の経常収支比率などの指標と、同水準ま</p>

で近づけるとすれば、現行の料金からどれほどの値上げ額になるのか、だいたいざっくりした試算のようなものはどのように考えていらっしゃるのか、お聞かせいただきたいと思います。

事務局 次回の審議会の資料で説明させていただきます。ただ今、数字を持ち合わせておりませんので、次回によろしく願いいたします。

委員 区長会連合会から来ております。気持ちの表明としては、なるべく値上げはしないしてほしいというのが基本ですが、今の話を聞いていると、そういうわけにはいかないのだろうなと思っております。

お聞きしたいのが 2 点あります。埼玉の陥没事故の関係として、鯖江市としては管路の点検は全部済んだのか、今は一部やっているとか、そういうことがあれば教えてほしいというのが 1 点。もう 1 点は、私も西部地区の人間ですが、農業集落排水処理場が 6 か所あるということで、そのこのからの修理、整備等にかかった場合、そのお金はこの新たな下水道使用料に入ってくるという考え方でよろしいですか。

事務局 まず、事故の後の点検結果について、鯖江市でやっている点検の現状についてお話をさせていただきます。あの事故もあって、緊急で国の方から点検してくださいということがあったのですが、それはかなり大きい管の点検で、それに対象になるものは鯖江市にはありませんでした。下水道管につきましては、毎年補助事業をいただいて、その中で年間 10km ぐらいずつカメラを入れたり、大きい管は人が入ったりして異常がないかという調査をずっと行っておまして、今後も続けていく予定であります。最終的にまた 1 周回したら、また元に戻ってずっとやっていくような形になっていくと思っております。水道につきましては、そういう調査をしておまして、漏水箇所を人が調査するようなことを、これからやっていこうかなと思っているところでございます。

集落排水施設の修繕、更新も今後必要になってくると思います。古くなれば当然直していかなければいけないところが増えてくると思いますので、極力補助事業で対応していきたいと思っております。簡単なものは単独で直していかなければいけない形になりますが、それも計画的に、一時に費用が多くかかるような状況にならないように計画を立てて、国の補助を取りながら行っていくような計画で進めていきたいと考えております。

委員 資料 9 ページの指標についてですが、鯖江市の管路経年化率が 35.3%で、管路更新率が 0.4%というのは、全体に対する経年劣化が 35.3%あって、そのうち更新できたのは 0.4%という認識でよろしいでしょうか。

事務局 お見込みのとおりです。年月が経てばまた古くなって経年化率は増加しますが、管路更

新については、国費をいただける部分がありますので、それをもらいながら行っていっているのですが、なかなか国費の補助がつかないというのもあるって、更新が思うように進んでいないという状況でございます。

委員 経年劣化も幅があると思うので、もう大至急やらなければいけない経年劣化もあれば、3年後、5年後に計画してやっていく経年劣化だとか、そこは割と幅があるのかなと数字を見ながら思っていました。

事務局 国の方から補助をもらいながら行う更新は、計画を出して、それで承認をもらったところから着手していくような状態でございます。国の補助事業でない部分も当然ありまして、それについては敷設年度から経過した年数をもとに、年月が経っている管路から更新していくような状態です。幅は当然ありますが、なかなか追いつかない状況ではあります。

委員 管路の経年化に対する更新率の幅が今後も広がっていくのではと心配しております。要は老朽化に対応するコストの部分というのは、今後もっと上がっていくのかなと数字を見ながら思いました。水道料金も大事ですけども、一番大事なのは、水道が止まってしまうのが一番の問題だとも思いますので、先ほどの埼玉の話ではないですが、そうならないような対応の方がより大事かなと思います。

委員長 経年劣化率についてですが、基本的に一般的に40年、設置して40年を経過したものは全て含まれていくということだと理解しております。その意味で、1年経てばまた増えていく可能性があるものだと。それに対して手が付けられなければ、この率はどんどん高まっていくという数字だと思っておいていただければと思います。

事務局 計画的には更新を続けておりますので、今すぐに壊れたというものではないということをご理解いただきたいと思います。

委員長 鯖江市以外でも、県内の自治体の中で60年、70年と手を付けられていないという市町もございますし、そういった意味で計画的にどう進めていくかということが非常に重要になってくるかなと、その目安だと思っただけでいいかなと感じました。

委員 どういった管がいつ敷設されたかという、そういう時系列の棒グラフみたいなものを図として示していただくと、皆さん分かりやすいのかなと思います。次回でもお示しいただけるとありがたいと思います。よろしくお願いします。

委員 水は命と関わっていくものですから、大切なのは皆さん肝に銘じて思っていると思いま

す。しかしながら、こんなに資金が足りないのは、今頃始まったことじゃないだろうって、私はちょっと思ってしまいました。もう少し前から、少しずつ少しずつ、値上げなり、啓発なりをするべきではなかったのかなと思います。水を使わないこと、それとも料金の値上げをすることのどちらに重きを置いているのでしょうか。

事務局 上水道の料金は、平成 22 年に値上げをしております。それ以後は上水道の料金については値上げをしていない状況でございます。下水道料金については、平成 28 年度に値上げをさせていただいております。上水も下水もいっぺんに値上げという、ところについては、使っている皆さんに負担がかかるというところで、市のやり方としましては、他の市でも同様ですけれども、上水の料金と下水の料金というのを、少し期間を空けて値上げするような形になっているのが現状でございます。平成 28 年度の下水道の使用料の値上げ後に、上水道の値上げの段取りをしていたときに、これは言い訳になるかもしれないけれども、コロナの流行など様々なことがありまして、タイミングを失ったというところは正直あるところでございます。人口減少や節水機器の普及で水を使わなくなったということで、料金が減少する一方で、施設も更新していかなければいけないという現状もございます。このままでは企業としての経営がやっていけないというところもございまして、ご理解いただいた上で値上げをしていきたいと市としては考えているところでございます。

委員長 環境保全だとかで節水しないといけないという話で、一方で水を使わなければ収入としては下がってきてしまう。あとは水を使わない、配水をしないと言ったとしても、管路に関しては経年劣化していってしまいますので、設備更新の費用はどうしてもかかってしまう。そういった状況の中で、過去の意思決定に対する反省を踏まえながら、そこを批判するだけではなくて、今後我々としてどうしていくべきなのか、こういった形が市民の方々にとっての安全・安心につながるのかということも踏まえて、議論していかなければいけないというご指摘をいただけたのかなと感じました。

委員 私も値上げの時期を逸したかなとは思っております。値上げは来年度からのお話ということになるかと思いますが、なかなか先行きが不安定な中、原油の高騰の問題もありますので、タイミングが悪いかなと思っております。ただ、今を逃すとまた経営状況が今後悪くなることも考えられますので、そこは苦渋の決断なのかなと思っております。

1 つ気になったのですが、維持管理費用は上水に比べると下水の方がはるかに大きいのでしょうか。

事務局 維持管理につきましては、下水道は配管の規模が大きいので、費用的には下水道の方が大きいです。

委員	また、県水ですが、使用量の 90%もかなり大きく占めているなと思いますが、これを少し減らすということは難しいのでしょうか。
事務局	責任受水量を下げてくださいという願いはしていますが、なかなか難しい状況でございます。県からはそういう形で契約しておりますので、なかなか難しいというところでございます。
委員	16 ページの下水道事業で、資本的支出の 8 割が企業債償還金となっていると説明されていますが、これは当然お金を借りて事業を運営しているのだと認識しております。これに伴って、26 ページで金利上昇について説明いただいておりますが、金利というのは、最初借りた時の金利ですとお金を返していくという形になっているのでしょうか。
事務局	今現在、返しているものについては、変動はないです。今の段階で借換えとかというところまでは考えておりませんが、金利が今よりは上がってくる可能性が高いということで、そこも費用がかかってくるということで、想定はしているところでございます。
委員	これはだいたい政府系の金融機関から借りているのですか。民間の金融機関からも借りているのでしょうか。借り換えによる金利削減のメリットも考えられると思うので、今後ご検討いただければと思います。
委員長	企業債は、普通の借入れとは償還年数が異なり、40 年になっているものと思います。一般的な借入れとは違いますが、こういった細かいところに関しても、各委員共通認識や目線を合わせた上で議論していく必要もあるのかなと思います。今、お話しありましたとおり、借入れや借換えができるかできないかなど、そういったところもまた情報提供していただければと思います。
(3) 今後の課題等について	
事務局	事務局より今後の課題等について説明
委員長	ただいまの説明内容について、ご質問等はございますか。
委員	10 月下旬がもう市長への答申ということで、5 ヶ月ほどしかありません。42 ページ、43 ページで今後の経営健全化の取組を示していただいておりますが、値上げについての検討調査はもう済んでいるのでしょうか。それらを今後委員会でお示しいただいて、我々

はそれを確認、承認するというやり方なのでしょうか。

事務局 料金改定につきましては、委員会の方に資料を提出させていただいて、ご承認いただくような形になります。それ以外の経営健全化の取組としては、こういう形で進めているところでございます。

委員 経営健全化の取組に係る費用も踏まえたうえでの料金改定の議論なのでしょうか。それとも先ほど示していただいた経営指標や収支の状況の改善のための料金改定の議論の後に、健全化の取組を講じていくというイメージでよろしいのでしょうか。

事務局 こういう取組も当然、事務局として行っていきながら、料金改定の方もお願いしたいというような形を考えているところでございます。

委員 最終的には料金を上げざるを得ないという話なのかもしれませんが、例えば水道で言うと、水道 DX の AI 技術の導入にかかる費用なども踏まえて水道料金を上げるということではないのですね。

事務局 そういうことではなくて、今の料金体系について、このぐらい上げた方がいいというような議論をしていただきたいと思っております。水道 DX の推進などにつきましては、役所として経営努力をするというところで現在進めているところもございまして、そういったところについては並行してやっていくというところでご理解いただきたいと思っております。

委員 今回、その努力をするとして、またその見直しがまだあるという前提での値上げと考えるおけばよいということですよ。これからはたびたびまた上がっていくかなというイメージを持ってしまったのですけれども。

事務局 今の経営状況をもとに、値上げ額に応じてこれだけの黒字が続きます、ではこの改定額にしましょうかというような議論になると思います。その他に、包括的に民間を活用して、効率を上げて経営をしっかりやっていこうというのは、また並行して行っていくというところでご理解いただきたいというところでございます。

委員 ウォーター PPP などの民間活用を行う計画はございますか。

事務局 今年度に導入可能性調査を計画しておりまして、業者選定の最中でございます。今年度で導入可能性調査をして、その結果をもとに今後どのように進められるかというのを検討していきたいと思っております。

- 委員長 そうすると、例えば 41 ページの指標で、当年度純利益、内部留保資金、経費回収率が基本的には一つの基準になって、これをプラスにするためにはどうすればよいかというような議論が一つになるということですね。
- もう一つは、投資の平準化、水道 DX の推進という、これは新しい取組と言ってもいいのかもしれませんが、これらによって、支出の面であったり、収入の面であったりとか、プラスアルファが追加で入ってきて、それをベースにして水道料金の見直しをしていくのかということだったのかなと思っていますが、まず初めには、そういった取組は考慮せず、現時点での数字上のところで健全な形になるためにはどうするのか、というのを我々として意思決定すればよいということですね。
- 委員 42、43 ページの取組は非常にきめ細かく多角的に考えていらっしゃるなと思いました。しかしながら、一番分からなかったのがスケジュール感です。例えば、この取組は来年からとか、この取組は何年先までにやるとか、そんなのがもう少し示されていけばよかったなと思いました。一番思ったのは、施設のダウンサイジングと施設の統廃合です。これは本当に物理的にこういうことができるのかなと思いついて見ているのですが、いつ頃できるのかなというのが疑問です。料金は令和 9 年度からの改定はやむを得ないのかなと思いますけれども、並行して一緒に考えていく方策があるのであれば、どのくらいのスケジュール感で考えていらっしゃるのか教えていただきたいです。
- もう一つ大事なものは、効率化、スリム化、縮小化です。必要に応じてやるにしても、行政サービスはやっぱり絶対低下させてはいけないうらうと思います。質を落とさずにスリム化、縮小化することが効率化だと思いますので、それによって、それがまた料金に跳ね返るのはあんまり望ましくないですけれども、行政サービスという部分では質を落とさないやり方を考えていただきたいと思っています。
- 事務局 施設のダウンサイジングや統廃合ですが、更新時期に合わせて、小さくできるものは小さくしていきたいような思いで進めております。
- 委員長 今のご質問は、例えば 42 ページであれば、投資の平準化などの部分が、アイデアベースでここに出てきているものなのか、もう具体的に進めていこうとなっているものなのか、実際にもうすでにスタートしているものなのかと、この切り分けをはっきりさせようというお話だったのかなと思います。もう一つが時間軸の時系列で、どのぐらいで始めるのか、どのぐらいで完了させるのかというところがイメージできるといいかなというご質問だったと、私は理解しました。可能であれば次回までに、42 ページの 1 から 8、43 ページの 1 から 5 の時間軸、時系列で、現状のステータスがどうなっているのかというところを共有いただければと思います。

委員 今回の料金改定というところは、料金回収率を上げていきたいというところが、要望の基本なのかなと思うのですが、かつて値上げをした際には、料金回収率は若干上がったのでしょうか。また、この料金回収率は、水道事業の方が今現在 82.7%であると説明いただきましたが、いつ頃からこの数字で、100%にもう少し近い時代もかつてあったのか、人口が減ってきたから数値が下がったのか、というのが疑問です。これを今回上げることで、料金回収率の 100%を目指していくのか。先ほどの将来推計のところでは 100%以上目指すという必要条件と書いてありますが、もう一気に 100%目指していくのか、それとも先ほどおっしゃっていた徐々に目指していくのか、どういう方向性で考えていらっしゃるのかなというのをお聞きしたいと思います。

事務局 料金回収率につきまして、次回以降にこちらの方からまた案を提出させていただきます。そこは是非審議していただければと思いますけれども、目指すべきはやはり 100%というのは一つの大きな目標かなというふうには思っているところです。

この料金回収率の変動につきましては、今は具体的な資料がないのですが、水道について言いますと、県水受水を始めてから赤字に転じて、そのあたりから数字が下がってきているのかなと思います。具体的な数字は、申し訳ないですが今は持ち合わせておりません。

委員 料金回収率が 100%を切っているというのは、結構長い期間続いているという認識でよろしいのでしょうか。人口が減り始めてから減り出したというよりも、その県水を買いはじめたときから、もうすでにこのぐらいの料金回収率だったという形でしょうか。

事務局 県水をいただくようになってから赤字決算となっておりますので、そこからかなと思っています。

委員長 こちらも可能な限り、もう少し遡って情報を出していただけるといいかなと思います。今日は良い悪いということを判断するというよりは、各委員が現状こうなっていますよというところを共通認識を持っていただく、現状認識の場とさせていただいた方がよろしいかなと思います。その意味で、一言で言うと厳しい状況にあるのだというのが現状の客観的な評価なのかなと思います。今後また各情報やデータ、資料というものを事務局の方でご準備いただいて、それを各委員と議論させていただきながら、精査しながら、方向性を決定していくような形になるかなと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいなと思います。

委員 経営健全化の取組の中に収納率の向上がありますが、前々年度の上水と下水道の収納率を教えてください。

	<p>委員長 これに関しましても次回でよろしいですかね。他にも、ぜひこんな資料、データ欲しいというのがありましたら、今この場で言うておいていただきたいと思いますし、今すぐ見つからないということもあるかもしれませんので、その際は事務局に適宜ご連絡させていただくという形でよろしいですかね。何か思いついたことがありましたら、メール等の方がいいかと思います。メモとなるような形で、メールで事務局の方にご連絡いただいて、ある程度数が揃った場合は各委員に共有いただければと思います。</p>
	<p>委員長 本日は鯖江市の上下水道事業の概要及び今後の課題等について説明をお聞きいただきました。次回からが、上下水道料金の改定についての具体的な検討といったところを進めさせていただきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。改めて今後のスケジュールについて、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
7. その他	<p>事務局よりスライド訂正事項及び、今後のスケジュールについて説明。</p>
8. 閉会	
	<p>委員長 本日の議事は終了いたしました。積極的にいろいろなお意見をいただきまして、議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。</p>
	<p>事務局 本日は大変お忙しいところ、長時間にわたりまして、ご出席いただきましてありがとうございます。上下水道は、市民の皆様の生活を支える重要なインフラでございまして、将来にわたり安定してサービスを提供していくということが使命でございまして、一方で、先ほど市の現状を説明させていただいたところでも、施設の老朽化、人口減少などによりまして、事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しているというのが実情でございまして、料金の改定は、市民の皆様に直接ご負担をいただくということになりますので、客観的なデータに基づいて、丁寧かつ慎重に議論を重ねることが重要であると考えております。本委員会では、先ほどスケジュールでも申しましたとおり、10月頃を目処に答申を取りまとめていただくという予定となっております。限られた時間のなか、委員の皆様にはご負担をおかけいたしますけれども、何とぞ、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
	<p>事務局 以上をもちまして、第1回鯖江市上下水道料金等改定検討委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p>